

- 20:1 そこでナアマ人ツォファルは
答えて言った。
- 20:2 それで、いらだつ思いが
私に答えを促し、
そのため、私は心あせる。
- 20:3 私の侮辱となる訓戒を聞いて、
私の悟りの霊が私に答えさせる。
- 20:4 あなたはこのことを知っているはずだ。
昔から、地の上に人が置かれてから、
- 20:5 悪者の喜びは短く、
神を敬わない者の楽しみはつかのまだ。
- 20:6 たとい彼の高ぶりが天まで上り、
その頭が雲まで及んでも、
- 20:7 彼は自分の糞のように
とこしえに滅びる。
彼を見たことのある者たちは言う。
彼はどこにいるのかと。
- 20:8 彼は夢のように飛び去り、
だれにも彼は見つけられない。
彼は夜の幻のように追い払われ、
- 20:9 彼を見慣れていた目は再び彼を見ず、
彼のいた所はもはや彼を認めない。
- 20:10 彼の子らは貧民たちに
あわれみを請い、
彼の手は自分の財産を
取り戻さなければならない。
- 20:11 彼の骨が若さに満ちても、
それも彼とともにちりに横たわる。

ツォファルの主張は正しいようですが、後に主から「真実を語らず」と言われていることは見落とせません。ここで彼は「心あせる」思いに陥り、自分たちの因果応報の主張が聞き入れられないことで、「侮辱」されたと過剰反応してしまいました。そし

て自分には「悟り」があると思ひ込んでいます。

人間同士の言い争いとはこのようなものではないでしょうか。プライドのため、自分の立場主張を守るための争いとなっていくのです。悪者の滅びについて主張しても、ヨブの心に響かないのは当然です。

ローマ書には「12:18 あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。」とあります。自分のプライドや立場に関して、人と争っても誉にはなりません。

また「12:21 悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。」とあります。語る者には愛の配慮、聞く者には謙遜が求められるのです。そのような者が「悪に打ち勝つ」のです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

